

よって急速に減少するが、<sup>131</sup>I の分泌量は比較的侵されないことを知った。

質問：片山健志（熊本大学放射線科）舌下腺の Bild はいかがか、あるいは重なってでると思うが。

質問：内山 晓（千葉大学放射線科）私どもの教室では<sup>99m</sup>Tc を使用して脳、甲状腺、肝および骨髄のスキャンを試みているが、<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub><sup>-</sup> が<sup>131</sup>I と同じような行動を取るところから、唾液腺の機能検査への応用をも試み、貴教室と同じテクニックで同じような結果をえた。

答：東 与光 舌下腺のシンチグラムは明らかに現われなかつたが、大量の<sup>131</sup>I を服用させたとき、正面スキャニングで舌下腺らしきのがでたことがある。

\*

### 81. <sup>131</sup>I-Triolein, RISA による

#### 消化吸収試験

##### —血液疾患を中心として—

岩崎一郎 ○兵頭浩二郎 名和英明  
(岡山大学平木内科)

血液疾患の中でとくに再生不良性貧血は高度の貧血にもかかわらず、栄養状態は比較的良好に保たれ皮下脂肪の発達も良好な例が多い。そこで私たちは本症での脂質代謝研究の一環として<sup>131</sup>I-triolein による消化吸収試験を行ない、本症での脂肪の消化吸収状態を検討し、合わせて RISA による消化吸収試験を行なった。また白血病患者においても同様の検査を若干例について行なった。

再生不良性貧血患者での<sup>131</sup>I-triolein 血中吸収曲線をみると血中への吸収は速やかであり 5 例中 4 例では 1 時間後すでに 17% 以上に上昇し、高い例では 28% に及んだ。最高値は 4 時間後に平均 23.5% であった。ただし、これらの例は治療のため prednisolone, ACTH 等を使用しており、これらの薬剤は triolein の吸収を助長するといわれる。そこで対照として同上薬剤使用中の脳軟化症患者を調べたところ吸収は比較的速やかであるが、最高値は 17.6% であった。

白血病患者についてみると、慢性骨髄性白血病では血中吸収状態は良好であるが、急性骨髄性およびリンパ性白血病では多量の steroid hormone を用いているにもかかわらず最高吸収率は 5 時間後に平均 8.4% であった。

つぎに 3 日間の糞便中排泄率をみると、正常人では 4.2%, 再生不良性貧血では 3.8%, steroid hormone 使用例では 2.5% いずれも低く、白血病では急性例で 6.9% とやや高い値を示した。

RISA 消化吸収試験では再生不良性貧血 3 例で血中吸収率最高値は 1 時間後に 14.5% とやや高く、正常例では 9.2% であった。

以上再生不良性貧血患者の消化吸収能力は良好であり正常例を上まわるが、ACTH, steroid hormone の影響が大であると考えられ、今後これら薬剤未治療例、使用中止例につき検討を加えたい。

質問：片山健志（熊本大学放射線科） triolein の平均値が出ていたが何人の平均値か。

答：兵頭浩二郎 まだ例数は少ないが、対照として正常人で 5 例行なっている。

\*

### 82. 反復してリサテストを行なった

#### 慢性脾臓炎の症例

片山健志 ○齊藤 実  
(熊本大学放射線科)

われわれは、たんぱく吸収試験の 1 種であるリサによる脾臓機能検査法を検討するために、従来より、機会あるごとに、脾臓疾患および対照として各種消化器系疾患における本法の成績について発表してきたが、今回は、本法を行なって慢性脾臓炎と思われた症例に、治療を行なって経過を観察しながら本法を反復して実施し、2 カ月ないし 3 年にわたりその成績を追求した 28 例について報告する。

〔検査方法〕 予めルゴール液を投与して甲状腺をプロックし、体重 kg あたり 0.5g のゼラチンを 5 倍の水に溶かし、これにリサ 100 μCi を混じて経口的に与え、1, 2, 3, 4 時間めに肘静脈より採血してウェル型シンチレイションカウンターにて放射能を測定し、全血量を体重の 8 % として<sup>131</sup>I 血中濃度を計算した。

〔検査対象〕 本法に加えて臨床症状、消化管 X 線検査、アミラーゼ値のほか、胃、腸管、肝、胆道系の諸機能検査を実施して慢性脾臓炎と診断した 28 例である。

〔検査成績〕 初回の臨床症状が著明であった時期の成績は、大部分の症例で低下を示している。しかし 1 例ではほぼ正常値を示し、たし別の 2 例では軽度の低下を認めたに過ぎないものもあったが、13 例において、中等度ないし高度の低下を認めた。すなわち、慢性脾臓炎においては、本法の成績は総じて低下の傾向と認めるが、その程度にはいろいろのものがあり、また時間的にみても 1, 2 時間値に低下の傾向を示すものと、3, 4 時間値に低下の傾向を示すものとがあって、何例中の何例とはっきり